

## SF-837 (ミデカマイシン) の口腔外科領域における使用成績

高橋庄二郎・小宮善昭・佐々木次郎・松崎輝宏・岩本昌平・宮地繁

東京歯科大学口腔外科学教室

## I. 緒言

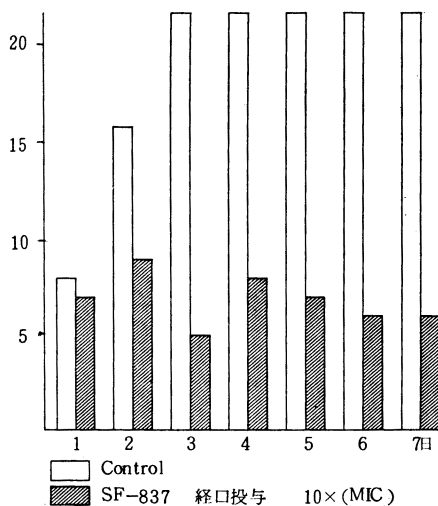
歯科，口腔外科領域での急性化膿性炎の主な起原菌としてはグラム陽性球菌，その内でもブドウ球菌と連鎖球菌の占める率が高く，マクロライド系抗生物質が first choice として用いられることも多い。

今回，私達は，明治製菓株式会社で新しく開発されたマクロライド系抗生物質 SF-837 の提供を受けたので，口腔外科領域と関連づけた実験的感染症治療成績と臨床使用成績について検討した。

## II. 実験

ラットの前歯根端部の粘膜下に病原性ブドウ球菌を接種して実験的顎炎を作成し，その治療成績を検討した。抗生物質は菌接種直前から投与を開始し，7日間にわたり投与を継続，抗生物質の投与によつて炎症発現が抑制されるか，あるいは炎症が治癒するかを観察した。菌の接種によつて発現する実験顎炎は，炎症の相にしたがつて，変化の見られないもの（-），腫脹のあるもの（+），腔内あるいは顔面に膿瘍を形成したもの，および自潰し口たもの（++），とわけ，点数法によつて（-）を0点，（+）を1点，（++）を3点と採点した。

図1 経口投与図



使用動物として，100～120 g の Wistar 系ラットを用い，使用菌株は *Staphylococcus aureus* Rosenbach FDA 209P JC-1 株である。接種菌量は  $2\sim 5 \times 10^9$  個で 0.1 ml の菌液として用い，1群 10 匹のラットに接種した。

SF-837 の使用量は 209P 株の MIC (0.78 mcg/ml) の 10 倍量，すなわち 7.8 mg/kg を 1日 3回，7日間カテーテルを用いて経口投与し，1日 1回炎症相の判定を行なった。なお，抗生物質を投与していない群 10 匹をもつて対照群とした。

SF-837 投与群 10 匹と，対照群 10 匹のそれぞれについて 10 匹のラットの点数の総和をもつて Reaction とし，これを図1に示したが，SF-837 の投与群では Reaction を対照群の約 3分の1に抑制することができた。

## III. 臨床使用成績

東京歯科大学口腔外科を訪れた口腔外科領域の急性化膿性炎の患者に SF-837 を使用してみた。対象とした症例は急性化膿性下顎智歯周囲炎 5例，急性化膿性骨膜炎 18例と扁桃周囲膿瘍 1例の計 24 例で，表1に示すように，比較的軽症例を対象としているため，投与日数は3日の例が最も多かつた。また投与量は大人では1日量を 1,200 mg に限定し，小児では 30 mg/kg とした。最近，私達の用いている効果判定基準によつて効果の判定を行なったところ，使用 24 例に対して著効と有効は 19 例で，79% の有効率であつた。本剤の投与にあつて，切開排膿あるいは抜歯などの消炎療法は，必要とされる症例に対してはこれを併用したが，非ステロイド消炎剤などの抗炎症剤の併用は行なわなかつた。薬剤感受性試験では，原因菌の同定が可能であつた症例は 4例にすぎず，その MIC は臨床効果と一致していた。副作用として 2例に軽度の発疹があらわれたが，投与中止および抗ヒスタミン剤などの投与によつて緩解させ得た。

## IV. 考 按

私達は，新しいマクロライド系抗生物質 SF-837 の口腔外科領域における使用成績を検討したところ，ブドウ球菌実験顎炎の治療成績においても，臨床使用成績においても良好な成績が得られた。

表 1

症例	疾患名	1日量	投与日数	臨床効果	副作用	投薬の変更	起因菌と感受性
1	智歯周囲炎	1,200 mg	3日	有効			<i>Streptococcus</i> 0.05 mcg/ml
2	〃	1,200 mg	3日	無効		4日目から CEX	<i>Streptococcus</i> 100 mcg/ml
3	〃	1,200 mg	4日	有効			
4	〃	1,200 mg	6日	やや有効		7日目から MOTC	
5	〃	1,200 mg	3日	有効			
6	骨膜炎	1,200 mg	6日	有効			
7	〃	1,200 mg	3日	著効			
8	〃	1,200 mg	3日	有効			
9	〃	1,200 mg	7日	有効			
10	〃	1,200 mg	2日	有効	発疹		
11	〃	1,200 mg	6日	やや有効	発疹	7日目から EM	
12	〃	1,200 mg	3日	著効			<i>Streptococcus</i> 0.39 mcg/ml
13	〃	1,200 mg	3日	有効			
14	〃	1,200 mg	7日	有効			
15	〃	1,200 mg	5日	有効			<i>Streptococcus</i> 0.2 mcg/ml
16	〃	1,200 mg	3日	有効			
17	〃	1,200 mg	8日	無効		9日目から CEX	
18	〃	1,200 mg	3日	有効			
19	〃	1,200 mg	3日	無効		4日目から CEX	
20	〃(小児)	600 mg	3日	有効			
21	〃	1,200 mg	3日	有効			
22	〃	1,200 mg	9日	有効			
23	〃	1,200 mg	5日	有効			
24	扁桃周囲膿瘍	1,200 mg	6日	有効			

近年、マクロライド系抗生物質による肝障害の発症例が報告されているので、本剤の臨床投与にあたって、いくつかの症例について黄疸指数、アルカリフォスファターゼ値および血清トランスアミナーゼ値、などの肝機能検査を投与前、投与中、投与後に施行したが、これらの検査成績が生理的変動の幅を越えた例は全く見られなかった(表2)。

表2 SF-837 投与前後の肝機能検査所見

No.	Al-P		黄疸指数		GOT		GPT	
	前	後	前	後	前	後	前	後
2	6	14.5	5.9	4.3	17.1	15	8.2	12.2
3	4	3.5	6	3.7	11.2	10	7.3	7.5
8	10.2	12	4.9	4.7	11.5	8.6	9.0	9.4
10}	5	7	3.8	3.9	12.8	9.6	6.2	7.2
	※	9		3.5		17		10.5
11	9	4	5.5	3.5	26	15.1	16.5	8.1
13	5.6	7.5	5.6	3.6	8.2	17	10.8	10.5

※ 発疹例のため1週間後検査

なお、舌、歯肉、顎下腺などを対象とした本剤の口腔組織への移行を測定したので、別報として近日報告する予定である。

## 文 献

- 1) 長尾喜景, 他: ラットの実験炎症について(抄)。日本口腔科学会雑誌 15: 168, 1966
- 2) 長尾喜景, 他: Aminodeoxykanamycin の口腔外科領域における使用成績。Chemotherapy 17: 1886, 1969
- 3) 真下啓明: 化学療法剤と肝障害。臨床と研究 44: 2561, 1967
- 4) 鈴木宏, 兼高達式: 化学療法剤による肝障害。最新医学 24: 1875, 1969
- 5) SF-837。明治製薬株式会社 1971

---

## STUDIES ON SF-837 (MYDECAMYCIN) ON ORAL SURGERY

SHOJIRO TAKAHASHI, YOSHIAKI KOMIYA, JIRO SASAKI, TERUHIRO MATSUZAKI,  
MASAHIRA IWAMOTO and SHIGERU MIYACHI  
Department of Oral Surgery, Tokyo Dental College

The authors studied experimental and clinical use of SF-837, and obtained followings:

- 1) In experimental osteitis of jaw in rats affected with *Staphylococcus aureus* 209P, SF-837 was remarkably effective.
- 2) In clinical use, good results were obtained in the treatment of cases such as osteitis of jaw. Side effects were obtained in 2 cases out of 24 cases.